

『自分だけ「余り」になってしまう…』の授業について

1 はじめに

表題の道徳教材(中学校1年生)における授業展開について意見を求められました。私の考えを紹介します。なお、2の(1)~(4)については、指導書の通りです。

2 授業展開について

- (1) 教材名 自分だけ「余り」になってしまう…
- (2) 主題名 お互いを認め合う
- (3) 内容項目 B-(9) 相互理解、寛容
- (4) 目的 いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、寛容の心をもって謙虚に他者から学ぶ態度を育てる。
- (5) 考察

資料には「余りの一人」をどう考えるかについて、次のような紹介がある。

- ・一人だけ余ったときは恥ずかしいし寂しいが、「無理に入れて」とは言いたくない。
- ・たまたま一人になることもある。今のうちからいろいろと味わった方がいいかも。
- ・たまたま一人になることはある。自分は嫌われているとか、自分には友だちがいないと思いい込んでダメ。
- ・みんなで「余りの一人」を分かち合うようになればいい。

本時の目的が、「いろいろな考え方に、寛容の心をもって他者から学ぶ態度を育てる」のであるから、資料から「余り一人」についての多様な考え方を知り、これまでの生活から「余り一人」の経験(どんな経験をして、そのときどう思ったか)を振り返り、たくさん交流することで、「余り一人」について考えるという展開ではどうだろうかと考えた。

3 指導過程

(1) 導入 5分

- 発問 「今まで自分だけ「余り」になった経験はありませんか。」
経験のある人? 手を挙げさせる程度にする。

(2) 展開前半 20分 【資料から道徳的価値を考える】

資料の範読

- 発問① 好美さんの悩みは何でしょうか。
発問② ぼくが「負けたなー」と思ったのはなぜですか。
発問③ 「余りの人」を分かち合うとは、どういうことですか。
※内容を確認する程度にする。
※その考えについて、深く考えたり、意見を交流したりしない。

(3) 展開後半 20分 【生活を振り返りから道徳的価値を考える】

- 発問④ 『これまでの生活の中で、自分が「余り」になった経験や友だちが「余り」になった経験を書きましょう。その時の思いも書きましょう。』
発問⑤ 『どうしても「余り」が出てしまうとき、どうすればよいかを考えよう。』

※案1 ⑤が書けない生徒もいると予想できるので、④⑤について一度に書かせた後、交流する。

※案2 ④の交流は簡単にする。または、班での交流のみとする。

※ 本時の目標をねらうならば、⑤の交流を丁寧にしたい。⑤の交流のあと、友だちの意見について、自分の考えを書かせたい。交流では、単に自分の意見を言うだけでなく、友だちの意見について、自分の意見を言うということができれば、素晴らしいと思う。

(4) 終末 5分 【授業の振り返りをする】

○授業の振り返りを行い、道徳ノートに○をつける。

○振り返りの4つの項目から一つを選び、具体的にどんなことかを書く。(一行程度とする)

3 おわりに

「いろいろな考え方に、寛容の心をもって他者から学ぶ態度を育てる」という本時の目的からすれば、展開後半で、次のA・Bの意見でディベートを行うという方法もよいのではないだろうかと思います。

“余り”が出るような時、

A:順番に“余り”になる B:誰かが自ら“余り”を引き受ける

実践後の生徒の様子を伺いたいものです。